

モモせん孔細菌病情報第1号

令和2年8月17日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

モモせん孔細菌病の秋季防除を実施して越冬伝染源量を減らしましょう

1 発生状況

7月下旬に行った巡回調査（18 ほ場調査）において、発病葉率は10.2%（平年8.2%、前年8.7%）で過去10年と比較して4番目に高く、発生ほ場率は83.3%（平年66.1%、前年66.7%）で過去10年と比較して3番目に高い状況であり（図1）、前年同時期よりも発生が広がっています。

2 防除対策

- （1）本病原菌は、新梢の枝病斑（夏型枝病斑、図2）から風雨により飛散し、枝の落葉痕（葉が枝から脱落した跡）等から侵入し、越冬します。これが、翌春に春型枝病斑を形成し、次作の主要な伝染源となります（図3）。そのため、夏型枝病斑は見つけ次第除去し、ほ場外に持ち出して適切に処分しましょう。
- （2）今後、表を参考に収穫後の秋季防除を実施して、越冬伝染源量を減少させましょう。特に、発生が多いほ場では、9月から10月にかけて、IC ボルドー412 を2週間間隔で計3回散布しましょう。また、台風等で落葉した痕に病原菌が感染するので、台風の通過前に予防散布を実施しましょう。
- （3）防風ネットの設置、補修を行うなど防風対策を実施しましょう。
- （4）薬剤によっては、高温、多湿時の散布で薬害を生じる恐れがあるため、注意しましょう。
- （5）収穫中のほ場がある場合、農薬の使用にあたっては、収穫前日数に注意しましょう。

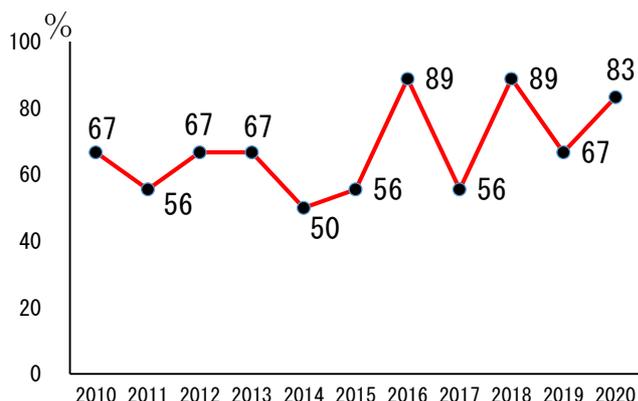


図1 巡回調査（7月下旬）における発生ほ場率の推移



図2 夏型枝病斑

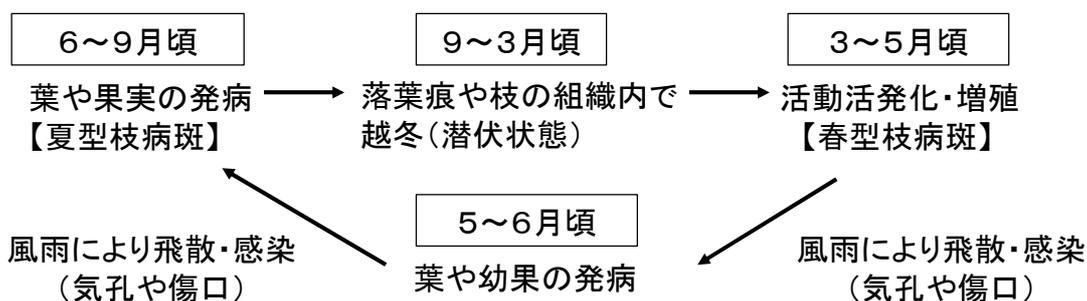


図3 モモせん孔細菌病の伝染環

表 モモせん孔細菌病に対する主な防除薬剤

薬剤名	成分	使用時期	本剤の使用回数	FRACコード
ICボルドー412	銅	-	-	M1
マイコシールド	オキシテトラサイクリン	収穫21日前まで	5回以内	41
スターナ水和剤	オキシリニック酸	収穫7日前まで	3回以内	31
チオノックフロアブル/ トレノックスフロアブル	チウラム	収穫7日前まで	5回以内	M3
バリダシン液剤5	バリダマイシン	収穫7日前まで	4回以内	U18

農薬登録情報は令和2年8月13日時点の情報です。

オキシテトラサイクリンを含む農薬には、マイコシールドの他にアグリマイシン-100があるので、総使用回数に注意しましょう。

FRACコードは殺菌剤の作用機構による分類を示します。

FRACコードの詳細は、https://www.jcpa.or.jp/lab0/jfrac/pdf/code_pdf01.pdf を御覧ください。

農薬の散布に当たっては、ラベルの表示事項を守るとともに、他の作物や周辺環境への飛散防止に努めましょう。